

第125号

2011 2. 25

ながの 社会福祉士会 NEWS

■発行：社団法人長野県社会福祉士会
 ■事務局：〒380-0836 長野市南県町685-2 長野県食糧会館6F
 TEL：026(266)0294 FAX：026(266)0339 E-mail：hope@nacsw.com
 http://www4.ocn.ne.jp/~nacsw/ ■編集：広報委員会

目次	巻頭言	1	委員会・地区だより	3～4
	成年後見活用講座報告	2	事務局だより	4
	諏訪公開講座の報告	3		

巻頭言

ソーシャルワーカー

CSWは『詩人』『夢追い人』であれ！

会員No.391 小池正志 (長野県社会福祉協議会勤務)

表題の言葉は、1992年の第4回社会福祉士の国家試験に合格し、現任研修の折りに、横須賀基督教社会館々長阿部志郎先生の特別講義の一節である。先生は、社会福祉士への期待を込めて、『日々の業務、目の前のクライアントに対し出来ることは、今の日本の福祉水準では限りなく少ない。しかし社会福祉士をはじめとしてソーシャルワーカーが力量をつけ、力を合わせ、今出来なくてもやがて実現できる時が来ると…。いや、それを目指して実践して欲しい。だから、夢・理想を追いかけて欲しい』と力説された。

折しも、県士会がたった31人、それも長野県下の社会福祉士有資格者全員で産声を上げ、日本社会福祉士会が555人で結成された頃の時代である。

時は流れ流れた。福祉サービスは、「措置制度」から「契約利用」に変わり、個人の尊厳や自立支援、そして自己選択・自己決定・自己責任が強調されている。時代背景は変わっても社会福祉士に課せられた責務は重い。県士会の目的は、定款第3条に『社会福祉に関する援助を必要とする県民の生活を支援し、及びその権利を擁護し……県民の福祉の増進に寄与すること』とある。目的・目標は高々と掲げる必要があるが、手段を目的化してはならないと何時も考えている。今日、県士会の会員は766人、設立時の約25倍もの大きな組織になったが、県士会の入会可能な有資格者は、会員の2倍の1,500人余もいる。県士会をもっと大きく、そして強固にする必要性を感じている人も多いと思う。だがしかし、それは飽くまでも手段であって目的ではない。

福祉サービスは、量とともに質が問われる時代である。福祉サービスの質は専門性にあり、専門性は各々のスキルにある。社会福祉士資格が無くても、業務が出来る今日の日本の福祉水準である。以前は「社会福祉士は、やはり違う」ということを周りに認めさせたかったように思う。今は、「社会福祉士会・会員はやはり違う」ということを、日々の業務の中で実証していく必要がある。故に、県士会の会員の名刺には、医師や弁護士、司法書士のように(株)長野県社会福祉士会会員と入れるべきである。

一生懸命努力すればするほど業務は多くなり、困難になるのがこの業界の宿命である。それを厭わずやる、生き甲斐をもってやっているのが県士会の会員であると思う。もっともっとプライドをもって、単なる社会福祉士に勧誘ではなく、県士会に加入しなくていいのかを問いかけよう。そして、夢や理想を追い求めるために、専門性を磨き一緒に頑張ろうと呼びかけよう。

社会福祉士 様々な職種 が成年後見・権利擁護を学ぶ!!

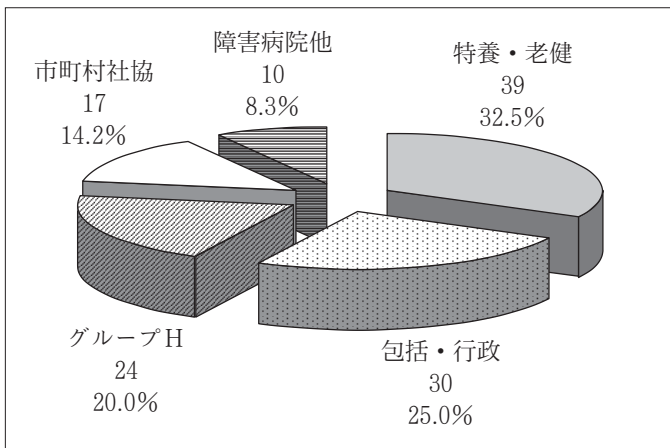
<レポーター：講座担当&事務局 4人組>

平成22年度「福祉関係者のための成年後見制度活用講座」は、去る2月3・4日、松本市浅間温泉で開催。会場には社会福祉士をはじめ多彩な資格者・職種の人達が、定員を遙かに超える約120人が参加していた。

会員&多彩な参加者

活用講座周知の案内は1月中旬に行ったが、申込締切前には定員の100人を超え、会場限界の120人にしたにも関わらず約20人は丁重にお断りをせざるを得なかった。

参加者の内訳は、下のグラフのとおりである。



資格別では、社会福祉士が最も多く48人(40%)内会員31人であった。続いて、ケアマネ22人、介護福祉士7人、保健師・看護師5人、PSW・MSW4人、その他47人(管理者8人、介護職13人、相談職8人、社協専門員5人、税理士・行政書士各1人他)であった。

参加者の40%を社会福祉士が占め、25%が会員であったことは、会員の専門研修と同時に、会員以外の関係者が多数あり、公益事業の大きな役割を果たしたといえる。

進化したプログラム等

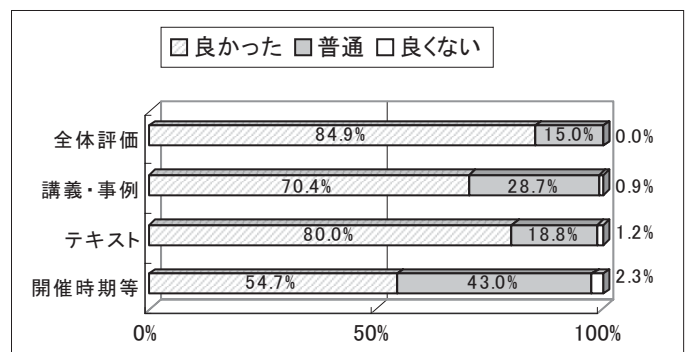
プログラムは、昨年からバージョンアップ。一方的な講義のみではなく、事例検討のグループ討議を入れたことに加えて、共催である県社協の依頼を受け、個別相談会を組み入れた。この相談は評判が良く参加者の1割を超える13ケースに対応した。今後の各種研修会においては、一方的な講義だけでなく、グループ討議や個別の相談あるいは気軽に質問できる時間設けることの重要性を改めて認識させてくれた。

そして7講義の内4講義と個別相談の殆ど=12ケースの対応は、優秀な県土会・ぱあとなあの会員であったことは言うまでもない。

活用講座のアンケート結果

アンケートには、約75%90人が回答してくれた。全体評価では、約85%の参加者が「良かった」と回答していただき、「良くない」0人であった。個別の講義・事例討議も総じて評価が良かった。次年度の課題は開催時期の再検討である。アンケート集計は下のグラフのとおりである。

- ◇特養では後見人を立て財産の管理をして頂くケースが多く大変勉強になりました。個別相談会の機会を設けて頂きありがたかったです。(特養職員)
- ◇今回講座を受けることで成年後見制度の活用の仕方等学ぶことができて良かったです。(社協職員)



蛇足??! いや、とっておきのレポート

- ① オプション企画 フィバー!!!
懇親・交流会はオプション。しかし4分の1以上の約30人が参加。自己紹介・アピール、県土会加入の歓迎、決意表明等々…深夜までネットワークづくりを展開
- ② 活用講座開催を通じて 新規加入10人!
活用講座申込時及び講座の休憩時間、個別相談、懇親会の折りに積極的に勧誘した結果。打てば響く、そして声をかけて欲しい有資格者がたくさんいるを実感。
- ③ 参加者の学習熱心に脱帽!
初日のみ書籍販売コーナーを設置。かなりの参加者が成年後見に限らず権利擁護や社会福祉士のスキルアップ関係の書籍を購入、販売業者も大喜び。研修会は必ず書籍販売を!

燃え尽きる前に、学んでみました

～ 諏訪ブロック公開講座報告～

長谷川 登

平成23年1月22日(土)、諏訪市総合福祉センターにおいて、「燃え尽き症候群にならないために」と題した講演会を開催しました。講師は長野大学の稲木康一郎先生で、先生は病院にお勤めだった経験から、看護師のストレスと「燃え尽き症候群」に関心を持たれ、医療や福祉の専門職がいきいきと働くための研究をされており、「燃え尽き症候群」についての解説と予防について、心理テストも使いながら解りやすくお話いただきました。

当日は50名の参加があり、社会福祉士の他に、介護福祉士や保育士、企業からも参加があり、関心高さが伺えました。

「燃え尽き症候群」は個人が気をつけるだけでなく、組織としても考えていかなければいけない課題であるそうです。福祉の仕事は、やりがいのある仕事の一方でストレスも多い仕事です。今回のお話を今後に活かして行きたいと思います。

※この研修は県潜在的有資格者等養成支援事業（キャリアアップ支援研修）補助金で運営しました。



委員会だより

権利擁護センターぱあとなあながの

成年後見人等名簿登録者（ぱあとなあメンバー）は2月の活動報告書を県土会事務局に提出下さい。未受任者も別紙1を必ず提出願います。

12月の委託研修運営委員会にて、来年度の「成年後見人養成委託集合研修（松本会場）」を実施することを決めました。開催日程は7月～10月に予定します。例年の受講要件である全日程を受講できる者、研修終了後は必ず名簿登録できる者などに加え、来年度から本会の基礎研修修了者が受講要件に加わります。当研修の受講希望者は各地区で開催する、基礎研修を必ず受講下さい（※中信地区「基礎研修」は7月2日(土)の午後に塩尻市えんぱーくで開催します）。成年後見人養成研修要綱は次号の広報に同封します。

《実績と予定》

1. 1月29日(土)「第2回成年後見人養成研修連絡調整会議」・東京都・【出席者】金川優子氏。
2. 2月3日～4日「福祉関係者のための成年後見制度活用講座」・松本市浅間温泉ホテル井筒・【受講者】120名。【スタッフ】活用講座運営委員 小池正志氏、北澤さつき氏、花田百恵氏。
3. 2月5日(土)「H22. 第2回ぱあとなあながの運営委員会」・松本市南部公民館・【出席者】ぱあとなあ地区運営委員等17名。
4. 4月16日(土)「H23. 第1回ぱあとなあながの運営委員会」・松本市・【出席対象者】ぱあとなあ地区運営委員。
5. 5月15日(土)「2011. 成年後見人養成委託集合研修連絡調整会議」・東京都・【出席者】委託研修運営委員1名。
5. ぱあとなあ名簿登録者の地区活動（※センター把握分のみ掲載）
 - (1) 隔月開催「東信地区リーガルサポートとぱあとなあ合同学習会」・東御市。

- (2) 2月6日(土)「H22. 第4回中信地区リーガルとぱあとなあ合同学習会」・松本市南部公民館・【講師】三村仁志氏、南原友枝氏。【出席者】ぱあとなあ11名、リーガルサポート4名、弁護士会3名。

子ども家庭分野専門委員会

去る1月18日長野県社会福祉士会、長野県精神保健福祉士協会、日本社会福祉士養成校協会の三団体は長野県教育委員会の山口利幸教育長を訪ね、「スクールソーシャルワーカー活用事業に関する要



望書」を提出いたしました。要望事項としては、文部科学省の補助事業の積極的活用、専門職採用の徹底、非常勤雇用から常勤雇用への転換の3点を掲げました。教育長からは財政緊縮の中、来年度に関しては今年度同等の予算が精一杯である旨のお話がありました。今後は市町村教育委員会の教育相談職との連携体制の確立、教職員研修への講師派遣などで内容の充実を図りたいとの事でした。今後もスクールソーシャルワーク事業に関しては、県教委と各団体が協力体制をとっていくことが確認できたという点で、一步前進はあったと思います。

また、1月23日の委員会において、来年度委員会体制：委員長（内田宏明）、副委員長（弓田香織：SSW担当）、副委員長（香西崇：子どもの権利担当）が確認されました。

また、2011年度事業としてスクールソーシャルワーク基礎講座の実施、子どもの権利条例策定への参画の2事業を柱にすることが決まりました。

・予定

第2回子ども家庭委員会

日時：3月6日(土) 10時から13時

場所：松本市なんなん広場

内容：SSW基礎講座、子どもの権利条例の検討

☆実習指導者養成委員会

来年度新たに実習指導者養成委員会が立ち上がる
予定で、現在委員を募集しています。

委員資格：実習指導者養成講習会修了者

業務内容：2011年度実習指導者養成講習会の企画
・運営

講座修了者のアフターフォロー体制の
検討

なっていたりの方は、担当副会長内田まで、メー
ル下さい。

kodomopost@net1.s-net21.ne.jp

地区だより



南信地区

◆上伊那ブロック

上伊那地区 1月学習会報告



小松 和子

上伊那地区では例年忘年会を開催しておりますが、
今回は都合により新年会を行いました。

1月8日(出)に関会長をはじめ8名の会員が集まり、
美味しいお食事とお酒で和やかに盛り上がりました。
今回は新しい顔ぶれの参加もあり、会のこと、仕事の
こと、その他…話は尽きず、夜遅くまで有意義で楽し
い時間を過ごすことができました。

上伊那地区今後の予定

2月学習会

日時：2月21日(月) 19:30~21:00

場所：伊那市社会福祉協議会

テーマ：「家庭裁判所との付き合い方」

講師：長野家庭裁判所伊那支部主任家庭裁判所調査官
今村 祥一 氏(会員)

3月学習会

日時：3月14日(月) 19:30~21:00

場所：伊那市社会福祉協議会

テーマ：今後の学習会の在り方について

中信地区

上條 弘

【活動報告】

1月26日(水) 19:00~21:00

松本市南部公民館にて

改めて「相談援助技術」を振り返りましょう！

～利用者を理解するための面接を考える～

講師 松本大学松商短期大学部

廣瀬 豊 氏(会員)

講義、演習後 質疑・情報交換が行われた。

参加者 会員17名 非会員3名(内1名入会予定)

(参加者の声)

はじめて学習会へ参加させていただきました。今回
の学習会は相談援助技術を振り返ろうということで、
業務の中で必要不可欠な相談、面接について演習等を
通して理解を深めることができました。日常の業務の
中で自分自身を振り返る機会が少なく、改めて相談援
助技術の奥深さを感じました。演習の中でも貴重な意
見を伺う事ができ、とても身になる学習会でした。あ
りがとうございました。

介護老人福祉施設岡田の里 清水 学さん

2月4日(金)

来年度の活動の打合せを行いました。

アンケートのご協力も参考にさせていただきなが
ら来年度の活動について話し合いました。

- ・4月から3月まで毎月活動することを目指します
- ・木曾地区・大北地区・塩尻地区等身近な場所で、
気軽に参加できる機会を設けます。
- ・新体制の下、皆様から寄せられた意見を元にさら
に充実した活動になると思います。

ご期待下さい。

【当面の予定】

6月9日(水) 相談援助技術についての学習会

7月2日(出) 中信地区 基礎研修・車座・懇親会

4・5月学習会についても企画中です。

詳細については県土会広報、HP、中信会員向けの
ハガキでお知らせします。

事務局便り



◎入会状況(平成23年1月末現在)

*会員数：766名 *新入会員累計：85名 *入会率：33.69%

☆☆☆ 今後のスケジュール ☆☆☆

3月

9日 運営委員会(松本市)

12日 日本社会福祉士会総会

19日 長野県支部第5回まるごと学会・第8回定
期総会(長野市)

20日 23年度0回運営委員会(長野市)



5月

14日 第9回定期総会(東信)

15日 第1回運営委員会

